

# 文化高知

2007年9月 NO.139



「仁淀大橋」 浜田 楠秀

〈もくじ〉

新作民権紙芝居 ふたたびあがる自由の叫び .....	西田幸人	2
東京からみた古郷 高知 .....	武内博泰	3
オペラ「椿姫」に寄せて .....	向原 寛	4～5
子どもの食育をめぐる .....	針谷順子	6～7
日本初の二試合制・選抜式「詩のボクシング」全国大会開催！ 声の言葉による表現の新たな時代が始まる！ .....	楠かつのり	8～9
高知のギャラリー① コモサロンと行動するアート展 .....	森木裕貴	10
言葉の現場から⑤ .....	西岡寿美子	11
地の名も無き偉人たち⑤ 童話作家宮沢賢治生みの親—近森善— .....	高橋 正	12
七～八月の事業のご報告 .....		13
風俗歳時記・風伯 .....		14～15



# ふたたびあがる自由の叫び

西田 幸人

現在、自由民権記念館で準備中の特別展「三大事件建白運動一二〇年記念―土佐自由民権運動群像展」(十一月二日～十二月二日)では、土佐の民権家約百人と政府側の資料など約二五〇点を展示し、建白運動を官民両面からさぐる事を試みます。資料だけでなく、鳴り物もあればと探してみると、「ノルマントン号沈没の歌」を見つけた事が出来ました。ノルマントン号事件とは、明治十九年に起きた海難事故で、英国乗組員は全員助かり、日本人乗客二十

五人は誰も助からなかった面妖な事件です。裁判権は英国側に有ったため、船長は無罪を言い渡されますが、国民世論は納得せず、後に政府は再審を要求して船長の罪が決定します。国民に不平等条約のみじめさを知らせる契機となった事件で、その一部始終を歌ったのがこの歌で一番から五十九番まであります。目下、高知県民謡協会に依頼して復元演奏ができるように準備しています。

五人は誰も助からなかった面妖な事件です。裁判権は英国側に有ったため、船長は無罪を言い渡されますが、国民世論は納得せず、後に政府は再審を要求して船長の罪が決定します。国民に不平等条約のみじめさを知らせる契機となった事件で、その一部始終を歌ったのがこの歌で一番から五十九番まであります。目下、高知県民謡協会に依頼して復元演奏ができるように準備しています。

果して、なりふり構わず事態の沈静化を図る政府と、逮捕投獄をいとわぬ土佐の民権家の結末はいかがなりました。よしや此身はどはなり果よが國に自由が残るなら

## 土佐自由民権運動群像展



三人は誰も助からなかった面妖な事件です。裁判権は英国側に有ったため、船長は無罪を言い渡されますが、国民世論は納得せず、後に政府は再審を要求して船長の罪が決定します。国民に不平等条約のみじめさを知らせる契機となった事件で、その一部始終を歌ったのがこの歌で一番から五十九番まであります。目下、高知県民謡協会に依頼して復元演奏ができるように準備しています。

三人は誰も助からなかった面妖な事件です。裁判権は英国側に有ったため、船長は無罪を言い渡されますが、国民世論は納得せず、後に政府は再審を要求して船長の罪が決定します。国民に不平等条約のみじめさを知らせる契機となった事件で、その一部始終を歌ったのがこの歌で一番から五十九番まであります。目下、高知県民謡協会に依頼して復元演奏ができるように準備しています。

紙芝居の絵師は田所のりあきさん。講釈は馬鹿林一座の新進女流弁士を予定しています。紙芝居とノルマントン号沈没の歌を、十一月二日と二十四日の午後一時頃から自由民権記念館のアトリウムで披露いたします。ご期待、ご来場ください。



# 東京からみた古郷高知

武内 博泰

## 東京黒潮会とは

私は、故郷高知から上京し、四十有余年が過ぎました。東京黒潮会はそのような者達の集まりで、主に東京を中心に活動しております。会員資格は、高知に本部があり東京に支部を有する企業のメンバーか、高知県出身者であり経済活動をしていることが唯一の条件です。その点で、関東高知県人会とは少し異なる会であります。

## 東京の現況

最近の東京の様子は、「六本木ヒルズ」「表参道ヒルズ」「東京ミッドタウン」と相次ぎ話題のスポットがオープンして街の様子が一変し、近隣の地価も高騰しました。かつてのバブル期を思わせる急激な変化をしておりませんが、一部のグローバル産業関連企業のみ好景気で、都内の零細・中小企業や内需型産業の不景気は相変わらずで、各種の格差が広がりをを見せております。

私たちが東京黒潮会の会員も、この激動の渦に対応して、互助と情報交換を強め企業の生き残りをかけ一生懸命頑張っております。

## 思い出の高知

昭和六十三年、四国と本州が瀬戸大橋で結ばれた歴史的偉業の式典に参加すべく、東京黒潮会の行事として参加者を募りました。三十名近いメンバーと岡山駅発高知行きの一番列車特急「南風」に乗り、瀬戸大橋

を渡り故郷高知に帰りました。

高知駅では地元高校生がブラスバンド演奏で歓迎式典を行なってくれ一同感激しました。夜は地元高知経済人が歓迎パーティーを開いてくれました。その時の「皿鉢料理」の思い出話は今でも会員の間では感動と共に語り継がれております。現在は東京、高知間の飛行時間は一時間程度となりましたが、もう一度土讃線を利用する列車の旅をしたいという希望が多数あり、私も第一線を退いたら是非実現したいと念じております。

## 「よさこい鳴子踊り」

今から七、八年前より東京の都心で『元氣祭りスーパージョッキー鳴子踊りIN原宿表参道』が例年八月下旬の土日に開催され、百万人を超える観客が代々木公園・原宿表参道に集い、踊り子隊も百チーム以上、高知からの参加チームも十数チームとなり一大イベントとなりました。同時間開催する高知の特産品フェアも大人気で、東京人も高知出身者も集まり家族にも好評です。ただ、この踊りのルーツが高知文化であることが東京人あまり知られていないことは私にとって不思議に思えてなりません。

## 地元高知の皆様へ

太平洋の広大な海原、山々の連なる豊かな緑、日本を代表する清流四万十川。時がゆつくりと、ゆったりと過ぎて行き海の幸、山の幸にも恵まれた高知。

いつの日か皆様の仲間に入ることが出来る事を、会員の大半が願っております。どうか地元高知の皆様が頑張りとおの「スーパージョッキー」のように元氣な活躍を心よりお祈りしながらペンを置きます。

(たけうちひろやす/東京黒潮会会長)



六本木ヒルズ



# オペラ「椿姫」に寄せて

向原 寛

総合芸術作品としてのオペラは古今の大作曲家の手によって、数えられないくらいに創り出されている。その中でもプッチーニの「蝶々夫人」、ビゼーの「カルメン」、ヴェルディの「椿姫」は世界三大オペラとして特に有名である。従って上演回数も多く、誰でも素直に感情移入できるオペラとして世界中のオペラファンに愛されている。

そのオペラ「椿姫」が、いよいよ九月二十五日、高知市文化プラザ大ホールで、オーストリアの名門「バーデン劇場」の引越越し公演で上演される。

オペラ「椿姫」はイタリア・オペラ最大の作曲家ヴェルディ（一八一三—一九〇二）中期の代表作の一つである。日本ではこのオペラのタイトルが「椿姫」となっているが、これは、オペラの原作であるデュマ・フィスの戯曲のタイトル「椿をもつ女」から来ている。大正七年このオペラが日本初演の際「椿姫」の訳のタイトルで上演されてから、今日まで、この呼称が慣例になっている。ヴェルディのつけた本当のタイトルは「ラ・トラヴィアータ」、日本語にすれば「道を踏みはずした女」となる。その道を踏みはずした女が、



このオペラのヒロイン椿姫と言われるヴィオレッタである。ちなみに、ヴィオレッタといえは、イタリア語で「すみれ」である。

「董」さんをヒロインにしたオペラのタイトルが、何故か日本では「椿姫」となっているのが面白い。

オペラ「椿姫」の物語は、十八世

紀初頭のバリを舞台に展開される

若く美貌に輝くパリの高級娼婦ヴィオレッタは貴族たちの憧れの的であった。大作作曲家フランツ・リストもその愛人の一人だったとはなかなか現実味が出てくる。彼女の病氣回復の祝いとしての、自宅での夜会で紹介された純朴な青年アルフレードに、ヴィオレッタは初めての真実の

恋を覚え、郊外で幸せな生活を送る。しかし、ある日アルフレードの留守中に現れた彼の父ジェルモンに、娘の縁談に障ると懇願され、泣く泣くそっと住み慣れたパリに帰る。事情を知らないアルフレードは怒り、ヴィオレッタの友人フロラーの仮装舞踏会で彼女をつかまえ、人前で紳士にあるまじき振る舞いで罵倒した。

数カ月後、かねてから胸を病んでいたヴィオレッタは病床で死を待つだけの身になっていた。父からすべての真相を知ったアルフレードは許しを請うが、時すでに遅く彼女は息を引き取る……。

馬鹿馬鹿しいと思われるが、これがヴィオレッタの悲恋物語である。この悲恋物語が素晴らしいヴェルデ

イの音楽に支えられたときに、魔法にかけられたように真実のものになって迫りくるから、オペラは不思議な力を持っている。

私は、このオペラの幕が開く前の前奏曲が好きだ。悲劇を暗示するような、透明で悲しい十六小節の弦楽器によるアンサンブル。ここで、鳥肌が立つように、オペラの世界に誘われる。その次に出てくるドーシラソフアレのメロデーは、第二幕でヴィオレッタが悲痛に歌う「わたしを愛して、アルフレード、わたしを愛して、あなたを愛しているようにわたしを愛して」このオペラのクライマックスのメロデーと同じである。タンゴが好きならご存知のコンチネンタル・タンゴ、「ヴィオレ

ッタに捧げし歌」はこのメロデーから作られている。

第一幕には、ヴィオレッタとアルフレードが出会う有名な「乾杯の歌」、「宇宙の鼓動」、「ああ、そはかの人か」、「花から花へ」、とても魅力的なアリアと二重唱が一杯。

第二幕には、「燃える心を」、「プロバンスの海と空」。第三幕では、「さようなら、過ぎ去った日よ」、「パリを離れて」、どれも皆さんが一度は何処かで聞いたメロデーが、このオペラにうまく織り込まれている。歌い手の素晴らしい声を耳にし、見事な演技力を目にしたとき、皆さんはいつの間にか素直に感情移入をし、演技者それぞれの立場を魂が理解をし、オペラが真実のものとなる。パーティーチャルの世界の体感かもしれ



2002年「カルメン」



2004年「コシ・ファン・トゥッテ」



2006年「フィガロの結婚」

高知市文化振興事業団は二〇〇二年に「カルメン」、二〇〇四年に「コシ・ファン・トゥッテ」、二〇〇六年に「フィガロの結婚」、今年にはイタリア・オペラの「椿姫」と連続して、しかも安い料金で開催されている。高知で毎年本格的なオペラが聞けるなんて、音楽ファンにとってはたまらない事である。高知市文化振興事業団は今の時期、この事業の継続は大変なことと思うが、県オペラファンの増加、県芸術文化発展向上のために、これからは是非頑張りたい。

むかいはらひろし／高知大学  
名誉教授・よんでん文化振興  
財団評議員



# 子どもの食育をめぐる

針谷 順子

## ① どんな子どもに育ってほしいか、イメージを共有して

食育基本法の前文には、カッコブきで「食」とあります。食は様々な生活とのかかわりがあり広げて深く起草にあたり「食とは何か」を定義することが難しかったからとのこと。確かに、地産地消などの生産者の活動、PTAや学校・教育委員会の「早寝、早起き、朝ごはん」運動、保健・栄養関係者による生活習慣病予防活動など様々な食育の取り組みがあります。だからこそ、育てたい子ども像を共有したいのです。私は食育を、人間の三つの食行動「食べたり、つくったり、それらを伝える」に注目し、自らの食を営む力を育むことを支える、と捉えて一九八三年から、子どもの支援を出発に、研究・教育や社会活動(NPO

活動となったのは二〇〇三年)をしてきました。

きっかけは、NHKと女子栄養大学食生態学研究室(足立己幸教授)との共同調査研究に参加し、小学生の孤食とその背景にある様々な家庭、学校、社会の問題を考える機会を得たことでした(テレビ放映の後、一九八二年に『なぜ、ひとりで食べる』がNHKより出版)。その当時は、第二次世界大戦後の急速な経済成長の中で、インスタントラーメンや子どもの孤食の問題などに象徴され、「豊かさの中の貧困」と言われていました。その後、経済の低成長の背景もあってか更に深化し、今や食育が国家的な課題にまでなっていました。

## ② 食事をつくることを大切にしたい子どものセミナー

の他に部活動、塾などと家庭での時間が少なくなり、その機会が軽減するためか、食事づくりを嫌う、面倒くさがるなどの実態報告があります。しかし、家庭では、朝食など食事を用意する機会は毎日あるはずで、家族は子どもに、協力して食卓を整えること、食事の挨拶をすることなど、誰でもできる基本的なことを要求してほしいと思います。

## ④ 子どもが育つ食事づくり

若者の人間関係能力の低下が指摘され、一方で子どもや若者の間では、その場の雰囲気に合わせてられないことを、「空気が読めない」と、否定的な人間関係を生み出すと聞きます。食事づくりが人間関係を育むことは前述の通りです。また、料理・食事作りは、こんな食事にしよう(目的的計画)、実際に作って(実施)、食べてみておいしかった、失敗した(評価)、そして次はこうしよう、とPDSサイクル(計画・実施・評価)の繰り返しです。その過程では、臨機応変に、計画の見直しや修正や応急処置と、課題解決をしながら進めますので、柔軟な思考、的確な判断力もつくでしょう。料理・食事づくりは高齢者の脳の活性化を高めると

私は、この問題の核は、核家族化、女性(母親)の就業率の増加向上などの社会的な背景があるもの、「家庭で食事を作って食べないことにある」と思いました。そこで、前述の足立らと、子ども自身が、家庭、学校、地域に発信する主体者になれることを願って、直接支援をすることにしました。支援の主旨を、「自然から食卓まで子ども自身が構想し実践する食事づくりセミナー」としました。日常の暮らしを想定し、異年齢(四〜五人兄弟)構成、大学生をサポーター役とした模擬家族、四泊五日の宿泊型で(一九八三年から実施)、食事をつくることへの参加を大切にしたい教育実践です。

食事づくりは単なる調理ではありません。テーマの通り、自然から食卓までです。作物の生産、収穫物を加工・保存、食事を構想(計画)、

の研究が報告されていますが、子どもにとっても同じでしょう。食が心身の健康、勉強への集中力や学力、人間関係能力、従って子どもの生活の質(QOL)の向上につながっていることは、高知県の調査をはじめ、多くの研究で証明されています。いつでも、誰でも、どこでも、どんなものでも食べることがで

きる、多様なフードシステムが発展している今の時代にこそ、子どもと共につくって、食べて、情報交換(伝え合う)する、この人間らしい食、我が家らしい食を育て楽しんでほしいと思います。

(はりがいよりこ/高知大学教育学部食物学教授)



宿泊型子どものセミナーの様子

## ③ 子どもは、食事・料理をつくるのが大好き

これまで二十五年、約六百余名の児童がセミナーに参加しましたが、殆どの参加児童の参加目的は、「料理が上手になりたい」、「修了時の評価は、料理が上手になって嬉しい」ということから、子どもは食事づくりが大好きです。これもセミナーでのことです。子どもは料理をつくれれば上手にできた方を家族にサーブし、喜んでもらったり、ほめられたりで益々料理づくりに意欲がわきます。箸を揃えているとき、誰かが落とせば率先して持ってきます。ご飯を炊けば、「お代わり」の給仕をします。してもらった子どもは「ありがと」が自然に言え、言われた子どもは相手を思いやることのすばらしさを実験します。食事づくりはこのような些細な行動のつながりの積み重ねの中で営まれており、この些細な行動がスムーズにできることにより、家族の中で役割を果たせて、どんな元気に、仲良くできてきます。残念ながら、学齢が進むと、児童・生徒の生活は、学校の授業時間



日本初の二試合制・選抜式

# 「詩のボクシング」全国大会開催!

声の言葉による表現の新たな時代が始まる!

楠 かつのり

## 「詩のボクシング」の 新たな挑戦

「詩のボクシング」とは、ボクシングリングに見立てたステージ上で、二人の朗読者＝朗読ボクサーが交互に自作品を朗読し、どちらの声と言葉が聴き手の心をより打ったかをジャッジが判定する「声と言葉のスポーツ」である。一九九七年に最初のタイトルマッチを開催、今年が十周年の節目に当たる。

そして、この十年を機にわたしは、新たな挑戦を決意した。今年の十月六日、七日の二日間、高知市で日本初の二試合制選抜式全国大会を行うことにしたのだ。このリングには、各地の大会で観客を魅了した朗読ボクサー八人が上がり、トーナメント戦を二回行う。組み合わせの違うトーナメントで、はたして二回とも同じ者がチャンピオンになれるのかわかるとすればかなりの表現力を身に付けた者だ。実はこの大会から、日本にはこれまでにいなかったプロの自作朗読者を生み出したとも考えられている。

ステージにも工夫を凝らしている。「朗読劇」「語り部」「読み聞かせ」「詩吟」「よさこい祭り」、そして「詩のボクシング」を一つにした「声

の百花繚乱」ともいえる構成だ。

朗読劇では、オーディションで選ばれた小、中学生が、心の内にあるものを声にするまでの葛藤や悲しみ、そして声にできたことの勇気や喜びを描く。そこに民話の語り部の語りや童話の読み聞かせ、さらに詩吟を交え、エンディングでは盛大に高知の「よさこい祭り」の情熱的な踊りを披露する。

きっと、これまでに観たことのないエキサイティングな舞台になることだろう。

## 「詩のボクシング」の過去

わたしが一九九七年に「詩のボクシング」を始めた当初、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌などのマスメディアが注目し、「詩で闘うとは一体何だろう」という好奇心をおおってくれた。確かに、こういった試みが日本で行われることは新鮮だったに違いない。

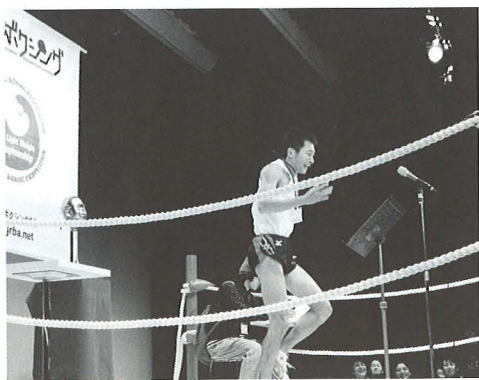
実際、第一回の試合を「詩人よ、言葉で殴り合え!」という見出しで報じたある新聞社の電話に、一般からの問い合わせが殺到したというところが残念なことに、このユーモアを狙った見出しが裏目に出て、試合を見たこともない人たちに、「詩

われる地方大会に参加する人も含め、誰にでもチャンスが与えられる。

さらに十一月三日には、徳島市で国民文化祭の正式プログラムとして高校生「詩のボクシング」全国大会が開催される。

まずは皆さんに、「詩のボクシング」の十周年記念事業の第一弾として、二試合制・選抜式「詩のボクシング」全国大会で声の言葉の表現による新たな時代の誕生を目撃してもらいたい。

くすのきかつのり／音声詩人・映像作家・日本朗読ボクシング協会代表



のボクシング」は「言葉で殴り合う(罵倒する)」ものという誤ったイメージを与えた。

しかし、「詩のボクシング」は、二人の朗読者が言葉で互いを殴り合うものではない。朗読者の声と言葉のパンチが、どれだけ観客の心を打ったかを競う場である。独りよがりではない。人の心を打つことはできない。今の時代は、自分を利己的に語る声と言葉が氾濫している。そこに「詩のボクシング」は、正しくカウンターパンチを放ったのだ。

初期の大会には有名詩人や作家、ミュージシャンが参加。特によく知られているのが九八年に「朗読による世界ライト級王座決定戦」として

### ◆楠かつのり プロフィール

関東学院大学人間環境学部教授。ドイツのハイデルベルク大学及びマインツ大学に留学してドイツ文学、哲学を専攻。一九九七年に自分の言葉を自分の声で表現する「詩のボクシング」を始める。同時に「日本朗読ボクシング協会」を設立、以来代表を務め、朗読の新しい楽しみ方及び表現方法としての「詩のボクシング」を国内に広めている。NHK番組「ようこそ先輩」に出演して母校を訪ねて指導した小学生「詩のボクシング」は教育界に大旋風を巻き起こした。著書に「詩のボクシング 声と言葉のスポーツ」(東京書籍)、文庫版「からだに弾む日本語」(宝島社)、「詩のボクシング」って何だ!? (新書館)、「詩のボクシング 声の力」(東京書籍)、『ビデオムービーの達人』(平凡社)、『ビデオ作家の視点』(平凡社)、『映像詩集』(ペーパービデオ・インスタレーション) (思潮社) 他。映像作品には、「遠い音」(フィルムアート社)、「夏の間」(芸術文化交流の会委嘱作品) 他。

■日本朗読ボクシング協会

http://www.asahi-net.or.jp/D1K1KSNK/about.htm

行われた「ねじめ正一対谷川俊太郎」戦だ。他にも、異種格闘技戦として歌人の福島泰樹とわたし対戦したものがあり、この試合の特集を組んだニュース番組で筑紫哲也が「これで現在の詩状況に風穴が開く」と紹介した。

また、作家の島田雅彦とミュージシャンのサンブラザ中野のタイトルマッチがテレビで番組化されたときには、美輪明宏が「日本でもやっとならば、美輪明宏が「日本でもやっとならば」と称賛してくれた。他にも作家の立松和平らが参加した二人対二人のタッグマッチもある。このように「詩のボクシング」がいろいろな試合形式で行われる中で、「言葉で殴り合う」という悪いイメージは払拭されていったのである。

## 「詩のボクシング」の現在

現在では、満十五歳以上であれば誰でも参加できる一般参加の大会(十六人の朗読ボクサーによるトーナメント戦)が全国各地で行われている。これまで一般参加の大会は十二都道府県で開催、また年に一度、各地のチャンピオン朗読ボクサーが東京に集い日本一の朗読王を決める全国大会も行われている。その他に



# コモサロンと 行動するアート展

森木裕貴

早いもので、コモサロン（ギャラリー）を平成十八年三月末に開いて一年と五ヶ月が過ぎました。展覧会も二十四回を数えます。

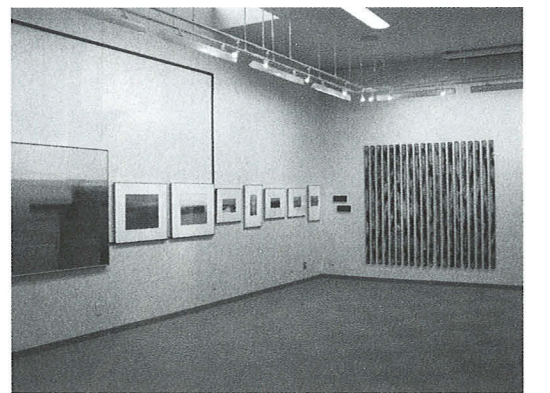
フロアーの広さが約六十平方メートル、天井高三・七メートルと比較的広い空間という事もあり、短時間では一人のアーティストに展覧会をお願いすることもむづかしく、最初は二人展を中心に構成してみようと考えました。そこで第一回展として、洋画家の岩合泰治先生と、現代美術作家のSEIGO（西悟）先生にお

願いました。

ここで二人展でしか知ることの出来ない結果が表れました。岩合先生は水平の線を基本に、SEIGO先生は垂直を基本に、色彩に於いても基本の色が青と赤の違い等、二人の作品を何十点か展示して初めて見えてくる対照的な作風の違いは圧巻でした。二回目の展覧会は陶芸と染め、三回目は洋画と日本画といった具合に、反発もしながら融合もする、このフロアーの広さだから出来る企画ではないかと思えます。

ジャンルにこだわることなく幅広いものを紹介し、皆に楽しんでいただける空間をつくりたい、そんな想いでいっばいです。展覧会オープンに当たっては可能な限りオープンングパーティーを催し、作家同士の情報交換はもとより、一般の方で美術を愛する人達にも集まっていただき作家との距離を縮めてもらうようにしています。

アートをもっと身近に感じてもらうたいとの想いもあります。展覧会の期間も少し考え、通常のギャラリーだと基本的に一週間としているところを私は最低でも十日位とし土曜、日曜が二回入るように設定をしています。これは出来るだけ多くの人に



足を運んでいただくためです。

またこの平成十九年四月からはこ、コモサロンをベースに「行動するアート館」を始動しました。「より多くの人にいい作品に触れていただきたい」という考えに基づき、公共性のある建物に私がコーディネーター年間契約で作品をリリース展示をします。

また作品は様々なジャンルで四ヶ月ごとに入れ替えます。高齢化が進む高知で、身体的あるいは交通アクセス等の問題でアートを見たくても見ることができない、そんな状況を少しでも改善し、アートを身近に感じてもらう狙いです。いい作品をより多くの人に見てい



ただき、感動してもらい、こんな時代だからこそアートをもっと生活に取り入れ、ゆとりを一つでも多くつくってもらおう。これがコモサロン・行動するアート館の提唱です。（もりきひろたか/コモサロン代表）

コモサロン  
高知市北本町三丁目八十七  
マルニ高知店二階  
TEL 〇八八-八六一-九二〇一

今月号からこのコーナーでは、高知県内でのギャラリーの運営に携わり、アートの展示活動を行っている方々に、そのギャラリーの特色や活動方針を紹介させていただきます。

## 言葉

### の現場から⑤

いよほど言葉(11)

— 変わる、育つ —

### 西岡寿美子

時代が変われば生活用具も変化する。同時に古い物は忘れられ、新たに登場する用具とその名が生まれる。個人の家にエアコンが入って半世紀近くなるかと思うが、それまで使われていた暖房具—竈、囲炉裏、自在鍵、火鉢、火箸、五徳、火消壺、七輪などが廃され、名称も消える過程を体験して来た。値がさであった瀬戸物の火鉢だけは捨てられず、睡蓮を植えて再利用している。これに咲く花は愛でも、大鉢が暖房具であつたことに気付く人は少ない。

素材な冷房用品の団扇、扇子は細々と命脈を保っているが、ご飯が傷まないように涼しいところに吊るした竹ソウケや、蚊避け、雷避け、中に虫を放したりした青蚊帳。食卓に覆った、蠅チヨウとか、カチヨウとか言っていた、蠅避けの透かし網の覆い物を覚えている人もごく少なかろう。

これら寒暖の諸道具に一挙に取っ

て代わつたのがエアコン。竹ソウケはジャー。暑い日の行水はシャワー。機能的ではあるが風情のかけらもない。それに、何でも外来語ばかりなのであろう。少し外れるが、化粧品などの広告など、三分の一以上がフランス語だか英語だか。何がどう作用して美顔になるのか、ならないのか、わたしなど、反ってひきつれを起こす文案（コピー）である。

生活様式の変化で、廃される物も言葉も戻らない。ただ、言葉自体は動く要素を持っている。尊敬や可能の、「〇〇られる」は「〇〇れる」と縮まり、中央教育審議会は中教審、メタボリック症候群はメタボ。ひところ、超何々、と言うのが流行った。素敵、最高、快適、美味、羨ましい、など、芸術であろうが、食味であろうが、美男美女であろうが、感嘆の質、量に関わらず、何でもかでも「チヨウ」で片付け、聞く側もそれ

で合点していた時期もあつた。永く使われてきたこの国の言葉は、繊細で美しいと思う。日本語圏育ちでは、他国語との比較はできないが、好きな言葉の一つに、山などの先端部や木の梢をさす「秀」という言葉がある。木の方は木梢とも言い、こちらにも美しい。短歌などには使われているのを目にするが、会話にはまらず出ないから、年少の人には古めかしく聞こえるかも知れない。

山間部へ行けば、この「秀」が「ホ」または「ホチ」として残っている。わたしは「ホチ」として記憶したが、言葉が動くというか、育つというかの過程に、初めて出会ったのが、この「ホ」「ホチ」であつた。

土佐人は、総じて誇大な物言いをする。県境近くの在のその老婦人は、わたしが「ホ」と言っても頭を傾げ、「ホチ」と言い直し、手振りで梢を

指すと頷いてくれた。その段階で、もうホにチが加わっているのに、「そりゃあ、木のトンボチのことぢやがね」と言ったのは、わたしだけでなく、座にいる老若みんな笑い転げた。ホでは高尚過ぎる。チを加えたがまだまだ微かすぎる。老婦人の在では更に、語尾だけでなく、頭にもトンを加えて強調したので、音の必然でホも濁り、これで耳に打ち込まれる重さを得た。

— そうか。なるほど。風にも耐えない木の先っぽも、こう頭尾に飾りを付けられると、妖精でもあつかうように跳ねる。印象付けようとするほど誇張し、人は言葉を膨らませて行くものらしい。人々の「なめし」が加わって、程良い口触り手触りの形に仕上がりが、広まるのが言葉というものである。

(にしおかすみこ/詩人)



# 童話作家宮沢賢治生みの親 —近森善一— 高橋 正

詩人・童話作家・宗教学家・教育者・農学者など、多面体の生を生きた宮沢賢治と土佐とは意外と縁が深い。元高知大学学長阿部孝は賢治と盛岡中学以来の親友であった。詩人岡本弥太は賢治の詩集『春と修羅』から決定的な影響を受けた。いまひとり、賢治と深いかわりのある土佐人、近森善一がいたことはあまり知られていない。

賢治生前唯一刊行の童話集『注文の多い料理店』は不朽の名作として評価は高い。この本の奥付に、「発行者近森善一」とある。その背景を少し探ってみよう。

善一は明治三十年八月二十五日、香美郡富家村（現・香南市富家）に生まれた。県立海南中学を経て、大正五年



近森善一

四月、盛岡高等農林学校農学科に入学、大正八年三月、同校を卒業、引き続き昆虫学研究生として同校に残った。その後、盛岡中学校、長崎県立農学校の教諭、大正十二年一月から七月まで母校盛岡高農の助手、翌年帰郷。その後、富家村村長や県立農学校（現・県立高知農業高校）教諭をつとめ、昭和四十八年一月十四日没、享年七十六歳だった。

善一は盛岡高農では賢治の一級下であったが、二人は寄宿舎で同室、性格の似た異色の秀才同士は親交を深めた。「弥次郎兵衛、喜多八のような二人だった」と友人は評した。善一は大正十二年七月、月給六十円の好待遇の高農の助手を辞めて、同級だった及川四郎と共同で「チカモリン」という農薬を製造したり、『病害虫駆除予防便覧』『農業昆虫教科書』『蠅と蚊と蚤』などの著書を次々と出版、それらを県内外に販売した。

その年の十二月のある日、善一は『病害虫駆除予防便覧』と「チカモリン」販売かたがた県立花巻農学校へ行くこと、同校教諭の賢治とたまたま出会った。賢治と親しかった森庄巳池の「注文の多い料理店」その5 山口徳治郎の話（『イーハトーヴォ』復刻第5号）のなかの、印刷屋山口からの聞き書き部分に、『病害虫予防便覧』や「ハエ

とノミとカ」の刊行資金は近森氏が出したものと思われました」とあり、また「注文の多い料理店」が刊行の原動力となった、『病害虫予防便覧』と「ハエとカとノミ」の刊行」云々とあるのは、近森善一が「注文の多い料理店」の出版の資金面での最大の貢献者であることを裏付けるものであろう。二冊の本はその後増刷、販売されたが、その印刷費用は及川から山口に一文も支払われず、積もり積もって千九百円にもなり、やむを得ず、山口は高知へ出張、善一から利子まで付けて金額払ってもらったと述べている。「近森氏は顕微鏡を買うといつては千円も二千円もの金を送らせて、料理屋にいった」（森庄巳池）と言われるほどに善一の実家は富豪であった。

（たかはしただし／高知ペンクラブ）

## 高知市文化プラザ かるぽーと 7月～8月の事業のご報告

### 美術中級講座「彫塑／洋画スキルアップカリキュラム」

美術分野での人材育成・レベルアップを図る、中級者向けの美術中級講座「スキルアップカリキュラム」を、「彫塑」と「洋画」の二つの分野で開講しました。

7月21～22日の「彫塑」教室には小野寺るか先生、7月28～29日の「洋画」教室には土井原崇浩先生をお迎えし、「彫塑」はテラコッタ作品の制作、「洋画」はデッサン画の制作をテーマに集中講座が行われました。

「彫塑」教室、「洋画」教室ともに10名の参加者があり、講師による密度の高い指導のもと、充実した内容の制作が行われました。



### 「夏休みまんが体験イベント—めざせ！ まんが職人」

横山隆一記念まんが館では、子どもたちがまんがを描き、いろいろな工作に挑戦する、夏休み恒例の「夏休みまんが体験イベント—めざせ！ まんが職人」を今年も開催しました。

今年は「まんが動物園を作ろう（7月28～29日）」「まんが風鈴（8月10～11日）」「まんが水族館（8月18日）」「まんがやじろべえ（8月19日）」の4コース、全10教室に291人の小学生が参加し、思い思いの作品をつくりました。どれも子どもならではの発想とびのびとした想像力豊かな作品に仕上がっていました。



### 第6回詩のボクシング高知大会 本大会

ボクシングに見立てたリング上で自作の文章を朗読し、どれだけ観客を惹きつけたかを競い合う「詩のボクシング高知大会」が8月22日に開催されました。今大会には6月16日の予選会を勝ち抜いた15歳から70歳までの朗読者（朗読ボクサー）16名が出場し、熱戦を繰り上げました。7名の審査員がその場で判定を行うため、朗読ボクサー同様審査員の表情も真剣そのものでした。トーナメント戦の結果、見事チャンピオンとなった朗読ボクサーには10月20日に東京で行われる全国大会への出場権が与えられました。



### ■お詫びと訂正■

2007年7月発行の『文化高知』138号10頁の「地の名もなき偉人たち④ 裁判干渉に抵抗、安重根を支えた検察官安岡静二郎」の1段目9行目、1段目15行目、2段目8行目、4段目4行目において「関東 督府」となっておりますが、正しくは「関東都督府」です。お詫びと共に訂正させていただきます。





# 景観考

タケムリナオヤ

本当は、もっと筋を通すべき公園だったのに。細長く東西に伸びるこの公園は、街の「背骨」ともいえるような公園だ。

ただ、たくさんの人々の意見を素直に取り入れすぎたあまり、東洋と西洋、現在と過去、自然と人工という二律背反があちこちに配置され、混乱することしきり。さらに、「本物」のはりまや橋が3つも4つもあっては、観光の根本たる「光」の力も弱まる。

この街で、この場所で、「こんなことを感じてほしい」。そんな思いの欠如が、こういった景観を生み出す。そして、この悪病は、高知の街全体に蔓延していく。



## Original goods Artist goods Ticket

かるぽーとミュージアムショップでは、横山隆一記念まんが館オリジナルグッズをはじめ、県内で活動が続けている作家の作品展示・販売、県下の文化施設で行われる様々なイベントのチケットを取り扱っています。

〒780-8529 高知市九反田2-1  
高知市文化プラザかるぽーと3階  
Tel 088-883-5052  
毎週月曜休業（祝休日の場合は営業）

### 今号の表紙

「仁淀川河口にて」 浜田楠秀  
四国の山間から長い旅でした  
ちょっと一休みして、いよいよ荒波の太平洋へ  
不安な気もしますが、仁淀大橋が小さなボート達と優しく見送って下さいます  
空の雲も見守って下さいます  
さようなら高知の皆様  
雨になって又お逢いませう

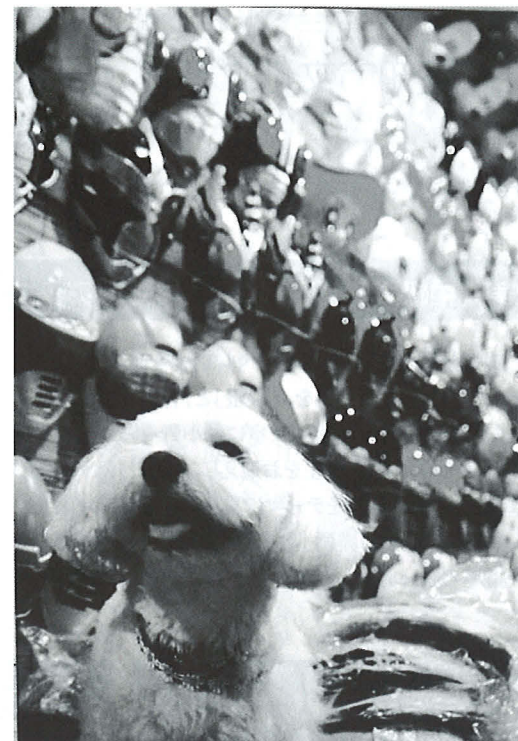
## 高知を撮る

第23回写真コンテスト入賞作品

### 看板娘 (平成18年 しなね祭)

中田 絢子

無口な店主に代わって  
客引きをするワンちゃん。



## 風俗

### 眠りかけた脳を覚ます

七、八人ほどで、「眠りかけた脳を覚ます」勉強会を行なっている。日本の中世文学が専門の先生に来ていただき、その頃の影印本を読んでいるのだ。影印本というのは、むかしの日本の筆書きの書物をそっくり写真に写して本にしたものだから、当時の書物をそのころ筆で書かれたままの文字で見ることが

できる。なかなかすらすらとはいかないが、日本の昔の生活や知恵、感性に触れることが実に楽しい。たとえば、霞んではつきりしない「おぼろ月夜」を歌に詠むなどは西洋人にはなかなか理解されない感覚ではないか。月にはつきりきれいな見え方がいいというかも知れない。たとえばまた「あ

げほのの月」や「春はあけぼの」、あるいは「薄明の春」なども、日本というが東洋というべきかも知れないが、日本の風土のなかで伝統文化の洗礼を受けた日本人だから理解できる「曖昧さ」や「はかなさ」なのではないか。「勉強会」でそんなふうに見えること、効率だとか便利さ、あるいは簡便さなどの、最大公約数的な情報を刷り込まれた我が脳は、いつの間にか自分を自分たらしめている部分を忘れて、身過ぎ世過ぎにうつつをぬかしている自分を発見する。  
春の桜の名所に行く、満開の桜を見、大勢の見物客が押し寄せる。しかしそこにある苔むした桜の老木の僅かに残った枝に、咲いている桜の数片に雨が降り注ぎ花が震えている、その「雨のそばかすり」美しさを愛でる、こことどすっかたり忘れていたことを、脳は私に気づかせてくれる。  
(野遊改め夏の果)

本年七月十九日、東京地裁は村上ファンド前代表・村上世彰被告に対し、懲役二年、罰金三百万円、追徴金約十億四千九百万円の判決を言い渡した。

そこで、山本武信さんに、久々に登場していただく。

山本氏は、共同通信ボーン特派員、フランクフルト支局長、經濟部次長などを経て、現在、阪南大学教授。

共同通信から地方紙に配信される、「日本診断」と題する連続コラムで、健筆を振っている。

昨年十月二日には、「通貨番人のモラルを問う」という論題で、福井俊彦日銀総裁の村上ファンド投資問題を糾弾。『金融市場を監視すべき「通貨の番人」が自ら、超低金利時代にお金がお金を生む不透明な錬金術に關与し、多額の利益を上げた。その結果、日銀の中立性を傷つけ、国民の信頼を失った。だが、福井総裁は「投資時は外部

### 「日・独総裁の品格」



機関にいて違法ではない」として、任期いっぱい職責を全うする考えを繰り返し表明した。強気なのは、政権中枢の後ろ盾があるからだろう。』  
(以下、筆者による要約)

ここで、山本氏は、世界最強の通貨の番人を自負する、ドイツの中央銀行を取材した、ドイツ特派員時代を回想する。  
中央銀行は、政府からの独立性が高く、政策姿勢や職業倫理は厳格そのものだった。

一九九〇年代に、最も実力のある総裁の一人として名を上げたティートマイヤー総裁には、孤高の哲人のような風格さえあった。

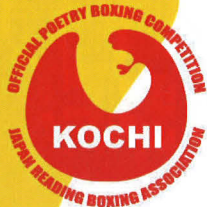
山本氏の単独会見に感じ、「人生の目標は自分自身。より良く、より高く」と語った。  
通貨の番人には、高潔な人格が求められていることを象徴する言葉である。  
(朴)



文化高知 No.139 「隔月発行」  
2007年(平成19年)9月1日発行

財団法人 高知市文化振興事業団

〒780-8529 高知市九反田2番1号  
TEL 088-883-5011(代表) 郵便振替 016800151148009



# 詩のボクシング

Japan Reading Boxing Association Official Poetry Boxing

「朗読劇」「詩吟」「語り部」「読み聞かせ」「おまつり祭り」  
そして「詩のボクシング」がひとつになった!

前代未聞の声と言葉の格闘技!  
2試合制 選抜式「詩のボクシング」全国大会

2007年  
**10月6日(土)、7日(日)**

14:00開演(13:30開場) 14:00開演(13:30開場)

企画・台本・構成・演出: 楠かつりの

**会場** 高知市文化プラザ かるぽーと大ホール

**入場料** 一般前売 2,000円 一般当日 2,300円 (2日通し券 3,000円)、小中高生無料

- 主催: (財)高知市文化振興事業団 ●共催: 選抜式「詩のボクシング」全国大会高知実行委員会 ●協力: 高知県立文学館・高知朗読率仕者友の会・高知演劇ネットワーク・演会
- 後援: 高知県・高知県教育委員会・高知市・高知市教育委員会・高知県高等学校文化連盟・高知県高等学校PTA連合会・(社)高知市観光協会・(財)高知県観光コンベンション協会・高知新聞社・朝日新聞高知総局・毎日新聞高知支局・読売新聞高知支局・NHK高知放送局・RKC高知放送・KUTVテレビ高知・KSSさんさんテレビ・KOB高知ケーブルテレビ・エフエム高知
- お問い合わせ先: 高知市文化振興事業団(企画事業課) 〒780-8529 高知市九反田2番1号 Tel 088-883-5071 Fax 088-883-5069 Eメール: shiboku@kfca.jp

日本朗読ボクシング協会公認「詩のボクシング」10周年記念行事